

口蹄疫被害 農家融資枠 300億円に拡大検討

山田正彦農林水産副大臣は25日午前の衆院農林水産委員会で、宮崎県で広がる家畜伝染病の口蹄疫（こうつていえき）による被害農家への支援策として、経営維持資金の融資枠を現在の100億円から300億円以上に引き上げる方向で検討して

いることを明らかにした。

融資枠を拡大するのは、伝染病などで影響を受けた畜産農家の経営を

財政的に後押しする家畜疾病経営維持資金。口蹄疫発生を受けて20億円から100億円に融資枠を拡充したばかりで、対象も発生地域の半径20キロ以内の搬出制限区域に拡大している。

赤松農相が陳謝

赤松広隆農相は25日の衆院農林水産委員会で、口蹄疫の拡大について「結果としてこれだけ広範囲に広がったことについては、大変申し訳ない気持ちでいっぱいだ。私

どもの努力も足りなかったかもしれない」と陳謝した。自民党の谷公一氏への答弁。

口蹄疫の雇調金 支給条件を緩和

厚労省

厚生労働省は25日、家畜伝染病の口蹄疫（こうつていえき）の拡大で影響を受けた事業者を対象に、国が企業の人件費の一部を補助する「雇調調整助成金」の支給条件を緩和すると発表した。同日から実施する。